

進路成熟態度尺度 (CMAS-1) の作成と項目分析

竹内 登規夫 ・ 坂柳 恒夫
Tokio TAKEUCHI Tsuneo SAKAYANAGI

(職業指導教室)

はじめに

Super, D.E. (1957) は、特性=因子理論 (trait & factor theory) に基づく適材適所 (matching men & jobs) 的な方式をとってきた進路指導に対し、個人の生涯を通じての“career”に着目して、その発達に応じた進路指導が必要であることを指摘し、その基礎を提供する職業的発達理論 (vocational development theory) を提唱した⁽¹⁾。その後、職業的発達理論は、米国はもとより、わが国でも早くから受容され、進路指導の理論と実践の基礎となっている。

職業的発達とは、職業選択と職業適応を、個人において統合した概念であるが、1960年代に入って、これを進路 (キャリア) 発達 (career development) と呼ぶ研究者が続出して、2つの用語が同義語的に併用され、1970年代に入ってからは、進路発達、さらに進路成熟 (career maturity) という用語が広く用いられるようになった。概念そのものは基本的に共通しているが、その範囲 (内容) の拡張と教育的価値に差異が認められる。

Crites, J.O. は、Super の職業的発達理論と彼自身の研究調査などに基づいて、「職業的発達目録 (Vocational Development Inventory: VDI) (1961年~1965年作成) を開発したが、その後 (1973年)、この目録を「進路成熟目録 (Career Maturity Inventory: CMI)」と改訂した。そして、この改訂の理由として、次の3点を指摘している⁽²⁾。

- (1) 進路発達に並行した過程であるキャリア教育が現在強調されている事実を反映している。
- (2) 「キャリア (進路)」ということばは、「職業的」ということばに結びついた特定の意味をもっていない。
- (3) 成熟は進歩的变化という概念を捉え、かつ伝えている。

(1)と(2)は、「職業的」を「キャリア (進路)」に置換えた理由であり、規定された職業の範囲内だけでなく、社会的諸活動や社会的役割の分担まで幅広く拡張してこうとする意図が含まれている。(3)は、「発達」を「成熟」に置換えた理由であり、成熟ということばのもつ意味、「進歩的变化」という価値志向的側面が強調されている。広井甫 (1978) は「このような価値志向を示す用語が広く用いられるようになったのは、青少年の職業的発達を学校教育での教育の対象として取りあげ、それに理想的な方向づけを与えたいという意図から発している」と説明している⁽³⁾。また、職業的成熟 (vocational maturity) は

個人の発達段階のある点における「状態」を意味する概念であるのに対し、進路成熟は、この「状態」も含め、さらに成熟の「過程」をも含む広義の概念である⁽⁴⁾。従って、進路成熟は、職業的発達と職業的成熟の両概念を統合・包含する優れた概念であるといえる。

研究の目的

進路指導の目標は、個々の児童・生徒・学生の進路発達ないし進路成熟を促進することであるといわれるが、この目標を達成する前提条件として、まず進路発達ないし進路成熟の実態を正確に把握し、理解しておくことが必要である。そして、この立場から、進路発達や進路成熟の程度を測定するための各種の調査・検査類が開発されている。

先に筆者ら（1977）も、進路成熟の態度的側面を測定する尺度（進路自律度、進路計画度、進路関心度）を作成し、児童（4年生～6年生）の進路成熟に関する多次元分析を行った⁽⁵⁾⁽⁶⁾。その結果、児童の進路成熟にとって、勤労にかかわる体験学習が、重要な意義をもつものであることなどが明らかになった。しかしながら、この調査研究から、「進路」ということばのもつ内包は複合的で曖昧であるため、包括的に進路成熟として把握するのではなく、教育的な側面の進路成熟と職業的な側面の進路成熟といった2つの側面に区分して把握することの必要性が指摘された⁽⁷⁾⁽⁸⁾。従来の進路成熟に関する研究の多くは教育上の進路成熟と職業上の進路成熟を区分することなく、むしろ両側面を包括的に把握しようとしているように考えられる。このアプローチでは、進路成熟の高低を測定することができるとしても、進路成熟の方向を測定することはできないといえよう。

筆者らは、進路成熟を教育的進路成熟と職業的進路成熟の2側面より把握するという視点に立て、進路成熟の態度的側面を測定するための進路成熟態度尺度（Career Maturity Attitude Scale：略称 CMAS-1）の試案を作成した。

本研究の目的は、進路成熟態度尺度作成の第一歩として、試案として作成された CMAS-1 の各項目が有効なものであるかどうかを確認するために、項目の分析を行うことである。

研究の方法

1. 調査の対象・時期

本研究では、進路成熟を教育的進路成熟と職業的進路成熟の2側面より把握するという視点から、中学生段階を取りあげた。調査の対象は、公立中学校（2校）の生徒、総計、892名である（ただし、有効回答票のみ）。

<表1>は、調査対象人数を、性別・学年別に示したものである。

調査の時期は、昭和56年7月である。

<表1>対象人数(性別・学年別)

学年 \ 性	男子	女子	計
1年	162	161	323
2年	171	140	311
3年	145	113	258
計	478	414	892

2. 進路成熟態度尺度（CMAS－1）の構成とその測定

進路成熟態度尺度（CMAS－1）は、＜表2＞に示されている下位尺度により構成されている。

＜表2＞ 進路成熟態度尺度（CMAS－1）の構成

側面 分野	教育的進路成熟：ECM (Educational Career Maturity)		職業的進路成熟：OCM (Occupational Career Maturity)	
	教育的進路自律度：ECA (Educational Career Autonomy)		職業的進路自律度：OCA (Occupational Career Autonomy)	
進路自律度 ：CA (Career Autonomy)	＜表3＞の 項目番号 (計12項目)	1, 4, 7, 10, 13, 16, 19, 22, 25, 28, 31, 34,	＜表4＞の 項目番号 (計12項目)	1, 4, 7, 10, 13, 16, 19, 22, 25, 28, 31, 34,
進路計画度 ：CP (Career Planning)	教育的進路計画度：ECP (Educational Career Planning)		職業的進路計画度：OCP (Occupational Career Planning)	
	＜表3＞の 項目番号 (計12項目)	2, 5, 8, 11, 14, 17, 20, 23, 26, 29, 32, 35,	＜表4＞の 項目番号 (計12項目)	2, 5, 8, 11, 14, 17, 20, 23, 26, 29, 32, 35,
進路関心度 ：CC (Career Concern)	教育的進路関心度：ECC (Educational Career Concern)		職業的進路関心度：OCC (Occupational Career Concern)	
	＜表3＞の 項目番号 (計12項目)	3, 6, 9, 12, 15, 18, 21, 24, 27, 30, 33, 36,	＜表4＞の 項目番号 (計12項目)	3, 6, 9, 12, 15, 18, 21, 24, 27, 30, 33, 36,

採点は、黙従傾向などの混入をさけるため、両方にキイを設けたうえで、スコアのキイに一致したものには「2点」、一致しないものには「0点」、「どちらともいえない(?)」には「1点」を与えた（＜表3＞、＜表4＞参照のこと）。

〈表3〉 教育的進路成熟測定のための質問項目とスコア

			はい	いいえ	?
1	ECA01	進学する学校は、自分でよく考え自分で決める	2	0	1
2	ECP01	進学の勉強は、試験のちかくなってやればよいことではあまりしていない	0	2	1
3	ECC01	何のために進学するか、しんげんに考えたことがある	2	0	1
4	ECA02	進学する学校の校風や勉強内容は、親や先生に調べてもらう	0	2	1
5	ECP02	いま進学したいと思っている学校は、よく考えたうえで決めた学校であるので今後わからない	2	0	1
6	ECC02	世のなかに、どんな学校や学科があるかもっと知りたい	2	0	1
7	ECA03	進学する学校は、親や先生のすすめる学校に決める	0	2	1
8	ECP03	進学のための勉強は、いつも計画をたててしている	2	0	1
9	ECC03	進学のことについては、それほど興味をもっていない	0	2	1
10	ECA04	進学する学校の校風や勉強内容は、できるだけ自分で調べる	2	0	1
11	ECP04	いま進学したいと思っている学校は、思いつきであるのでしばらくするとかわる	0	2	1
12	ECC04	進学したいと思っている学校では、どのような心構えや態度が必要なのかとても気になる	2	0	1
13	ECA05	進学する学校は、自分にあっているかどうか自分で考えて決める	2	0	1
14	ECP05	進学までの計画は、たてていない	0	2	1
15	ECC05	何のために進学するか、しんげんに考えたことがない	0	2	1
16	ECA06	進学する学校を決めても、その後のことは親や先生に責任をもってもらうつもりである	0	2	1
17	ECP06	進学したいと思っている学校は、将来つきたい仕事のことも考えあわせて決めている	2	0	1
18	ECC06	世のなかに、どんな学校や学科があるかはそのうちにわかるので今はそれほど関心がない	0	2	1
19	ECA07	進学する学校は、親や先生が自分にあっているという学校に決める	0	2	1
20	ECP07	先輩や先生の話の聞いたり、本を読んだりして進学までの計画をたてている	2	0	1
21	ECC07	進学したいと思っている学校では、どのような心構えや態度が必要なのかそれほど気にならない	0	2	1
22	ECA08	進学する学校を決めたら、その後のことについては自分で責任をもつつもりである	2	0	1
23	ECP08	進学したいと思っている学校は、将来つきたい仕事のことは考えずに決めている	0	2	1
24	ECC08	進学ことは、つねに気になる	2	0	1
25	ECA09	進学のための勉強は自分ですすんでできる	2	0	1
26	ECP09	進学した学校での過ごし方について計画をもっていない	0	2	1
27	ECC09	進学ことはあまり気にならない	0	2	1
28	ECA10	進学する学校は友達が行くという一緒に学校に決める	0	2	1
29	ECP10	自分にはどうしても進学したい学校がある	2	0	1
30	ECC10	進学したいと思っている学校について人にたずねたり、調べたりしたことがある	2	0	1
31	ECA11	進学のための勉強は親や先生からいわれなくてはできない	0	2	1
32	ECP11	進学した学校での過ごし方について計画をもっている	2	0	1
33	ECC11	進学したいと思っている学校について人にたずねたり、調べたりしたことがない	0	2	1
34	ECA12	進学する学校は友達と一緒にということよりも自分にあった学校を決める	2	0	1
35	ECP12	進学する学校を決めるのは、進学の直前でよいのでまだ考えていない	0	2	1
36	ECC12	進学のことに強い興味をもっている	2	0	1

進路成熟態度尺度（CMAS－1）の作成と項目分析

＜表 4＞ 職業的進路成熟測定のための質問項目とスコアー

			はい	いいえ	？
1	OCA01	将来の職業は、自分でよく考え自分で決める	2	0	1
2	OCP01	職業につくための準備は、就職の直前になってやればよいことで今はしていない	0	2	1
3	OCC01	何のために職につくのか、しんげんに考えたことがある	2	0	1
4	OCA02	つきたい職業の内容やどうしたらつけるかなどは、親や先生に調べてもらう	0	2	1
5	OCP02	今つきたいと思っている職業は、よく考えたうえで決めた職業であるので今後もかわらない	2	0	1
6	OCC02	世のなかに、どんな職業や仕事があるかもっと知りたい	2	0	1
7	OCA03	将来の職業は、親や先生のすすめる職業に決める	0	2	1
8	OCP03	職業につくための計画をもって準備している	2	0	1
9	OCC03	将来の職業のことについては、それほど興味をもっていない	0	2	1
10	OCA04	つきたい職業の内容やどうしたらつけるかなどはできるだけ自分で調べる	2	0	1
11	OCP04	今つきたいと思っている職業は思いつきであるのでしばらくするとかわる	0	2	1
12	OCC04	つきたいと思っている職業にはどのような心構えや態度が必要とされるのかとても気になる	2	0	1
13	OCA05	将来の職業は、自分にあっていかどうか自分で考えて決める	2	0	1
14	OCP05	職業につくまでの計画はたてていない	0	2	1
15	OCC05	何のために職業につくのかしんげんに考えたことがない	0	2	1
16	OCA06	将来の職業を決めても、その後のことは親や先生に責任をもってもらうつもりである	0	2	1
17	OCP06	今つきたいと思っている職業は進学したい学校のことも考えあわせて決めている	2	0	1
18	OCC06	世のなかにどのような職業や仕事があるかは、そのうちにわかるのでそれほど関心がない	0	2	1
19	OCA07	将来の職業は、親や先生が自分にあっていという職業に決める	0	2	1
20	OCP07	先ばいや先生の話を開いたり、本を読んだりして職業につくまでの計画をたてている	2	0	1
21	OCC07	つきたいと思っている職業には、どのような心構えや態度が必要とされるのかそれほど気にならない	0	2	1
22	OCA08	将来の職業について決めたら、その後のことについては自分で責任をもつつもりである	2	0	1
23	OCP08	今つきたいと思っている職業は、進学したい学校のことは別に決めている	0	2	1
24	OCC08	自分の将来の職業のことは気になる	2	0	1
25	OCA09	将来の職業につくための準備は、いろいろな人のアドバイスを受けながらも自分でできる	2	0	1
26	OCP09	職業についてからの計画をたてていない	0	2	1
27	OCC09	自分の将来の職業のことは、あまり気にならない	0	2	1
28	OCA10	職業についてからも親に助けをもらいたい	0	2	1
29	OCP10	自分にはどうしてもつきたい職業がある	2	0	1
30	OCC10	つきたいと思っている職業について人にたずねたり、調べたりしたことがある	2	0	1
31	OCA11	将来の職業につくための準備は、自分ではできない	0	2	1
32	OCP11	職業についてからの計画をたてている	2	0	1
33	OCC11	つきたいと思っている職業について人にたずねたり、調べたりしたことはない	0	2	1
34	OCA12	職業につくことによって親から独立したい	2	0	1
35	OCP12	つきたい職業を決めるのは、就職の直前でよいのでまだ考えていない	0	2	1
36	OCC12	将来の職業のことに強い興味をもっている	2	0	1

3. 分析の方法・留意点

分析にあたっては、次のことに重点（基準）をおいた。

- (1) 各項目の弁別力（Good-Poor Analysis による）吟味

得点の上位群，下位群各 25% を抽出して， χ^2 検定を行い，上位群，下位群の得点の間に明確な差異が認められる項目のみを選定する。

- (2) 各項目の困難度（正答率による）吟味

極端に困難な項目とか極端に容易な項目は，たとえ弁別力が十分であっても，個人差を弁別することが不十分であるから，尺度としては適切なものとはいえない。従って，正答（通過）率が，20%～80%のレンジにある項目のみを選定する。

- (3) 「？」反応率による吟味

「？（どちらともいえない）」の反応（回答）率が，50%未満の項目のみを選定する。なお，調査結果の統計処理は，名古屋大学大型計算機 FACOM M-200 を利用した。

結果と考察

進路自律度尺度の検討

進路成熟態度尺度の第 1 の構成尺度としての進路自律度尺度（Career Autonomy Scale, 以下 CAS と表記）は「はじめに」で論述した意図により，さらに教育的進路自律度尺度（Educational Career Autonomy Scale, 以下 ECAS と表記）と職業的進路自律度尺度（Occupational Career Autonomy Scale, 以下 OCAS と表記）に分け各々 12 項目づつ設定している。そこでここでは，CAS について ECAS, OCAS ごとに項目の妥当性を検証し，項目選定をすることにする。

1. ECAS 項目の妥当性検証と項目選定

ECAS 項目について研究方法の「3. 分析の方法および留意点」で示した基準をもとに項目選定をするためまとめたものが<表 5>である。

まず G-P 分析の結果をみると，ECAS の全項目に 1% 水準で有意差が認められ，12 項目全てに弁別力があり，この点に関して不適切な項目はない。

次に第 2 の基準，つまり通過率が 20～80% の範囲にあることという点についてみると ECA 09 「進学のための勉強は自分ですすんでできる」が 17.9%，ECA 10 「進学する学校は友達が行くという一緒に学校に決める」が 3.8% と通過率が 20% より低く，この両項目については再検討の必要がある。

さらに？反応率によって項目選定をすると ECA 02 「進学する学校の校風や勉強内容は，親や先生に調べてもらう」（55.7%），ECA 04 「進学する学校の校風や勉強内容は，できるだけ自分で調べる」（54.0%），ECA 07 「進学する学校は，親や先生が自分にあっているという学校に決める」（51.4%），ECA 09 「進学のための勉強は自分ですすんでできる」（55.1%）および ECA 11 「進学のための勉強は親や先生からいわれなくてはできない」（55.1%）という 5 項目については？反応率が 50% を越えており中学生には回答しにくい項目と考えられる。

進路成熟態度尺度（CMAS－1）の作成と項目分析

<表5> ECAS の項目分析

略号	項目	G - P 分析結果				通過率	? 反応率	
		スコア			x ² 値			
			0	1				2
ECA01	進学する学校は、自分でよく考え自分で決める	上位群	8	30	192	66.086 ***	64.0	29.6
		下位群	21	98	107			
ECA02	進学する学校の校風や勉強内容は、親や先生に調べてもらう	上位群	31	100	99	24.390 ***	29.0	55.7
		下位群	35	142	49			
ECA03	進学する学校は、親や先生のすすめる学校に決める	上位群	14	82	134	64.368 ***	44.2	45.5
		下位群	28	120	78			
ECA04	進学する学校の校風や勉強内容は、できるだけ自分で調べる	上位群	11	93	126	85.112 ***	34.0	54.0
		下位群	39	154	33			
ECA05	進学する学校は、自分にあっているかどうか自分で考えて決める	上位群	9	40	181	60.567 ***	62.8	29.7
		下位群	29	98	99			
ECA06	進学する学校を決めても、その後のことは親や先生に責任をもってもらつつもりである	上位群	2	40	188	75.254 ***	59.2	37.7
		下位群	11	119	96			
ECA07	進学する学校は、親や先生があつているという学校に決める	上位群	24	102	104	18.701 ***	32.4	51.4
		下位群	38	129	59			
ECA08	進学する学校を決めたら、その後のことについては自分で責任をもつつもりである	上位群	2	53	175	68.519 ***	56.3	40.8
		下位群	12	128	86			
ECA09	進学のための勉強は自分ですすんでできる	上位群	26	141	63	68.859 ***	17.9	55.1
		下位群	102	99	25			
ECA10	進学する学校は友達が行くという一緒に学校に決める	上位群	170	52	8	14.929 ***	3.8	34.8
		下位群	129	88	9			
ECA11	進学のための勉強は親や先生からいわれなくてはできない	上位群	8	104	118	69.631 ***	34.0	55.1
		下位群	49	135	42			
ECA12	進学する学校は友達と一緒にということよりも自分にあつた学校を決める	上位群	7	22	201	40.268 ***	71.0	23.9
		下位群	21	66	139			

(注) ***..... P<.001

以上の結果より、ECAS に関し妥当性ある項目として次のものを選定することができる。

- ECA 01 「進学する学校は、自分でよく考え自分で決める」
 - ECA 03 「進学する学校は、親や先生のすすめる学校に決める」
 - ECA 05 「進学する学校は、自分にあっているかどうか自分で考えて決める」
 - ECA 06 「進学する学校を決めても、その後のことは親や先生に責任をもってもらつてもりである」
 - ECA 08 「進学する学校を決めたら、その後のことについては自分で責任をもつつもりである」
 - ECA 12 「進学する学校は友達と一緒にということよりも自分にあった学校を決める」
2. OCAS 項目の妥当性検証と項目選定

ECAS 項目選定と同一の手続により OCAS の項目選定を<表6>をもとに行なうことにする。

まずG—P分析の結果をみると ECAS 同様、全ての項目に有意差がみられ、いずれの項目についても弁別力はあるといえる。

通過率についてみると OCA 10 「職業についてからも親に助けてもらいたい」という1項目のみが11.5%と20%を下まわっており、適切な項目ではないようである。

さらに?反応率について検索すると OCA 02 「つきたい職業の内容やどうしたらつけるかなどは、親や先生に調べてもらう」が53.8%、OCA 09 「将来の職業につくための準備は、いろいろな人のアドバイスを受けながらも自分でできる」が61.2%、OCA11 「将来の職業につくための準備は、自分ではできない」が56.7%、OCA12 「職業につくことによって親から独立したい」が52.7%となっており、これら4項目は今後検討されるべき項目と考えられる。

これら通過率が20%以下であったOCA10と、?反応率が50%以上であったOCA 02、OCA 09、OCA11、OCA12の合計5項目を除くとOCASとして次の7項目を選定することができる。

- OCA 01 「将来の職業は、自分でよく考え自分で決める」
- OCA 03 「将来の職業は、親や先生のすすめる職業に決める」
- OCA 04 「つきたい職業の内容やどうしたらつけるかなどはできるだけ自分で調べる」
- OCA 05 「将来の職業は、自分にあっているかどうか自分で考えて決める」
- OCA 06 「将来の職業を決めても、その後のことは親や先生に責任をもってもらつてもりである」
- OCA 07 「将来の職業は、親や先生が自分にあっているという職業に決める」
- OCA 08 「将来の職業について決めたら、その後のことについては自分で責任をもつつもりである」

進路成熟態度尺度（CMAS－1）の作成と項目分析

<表6> OCAS の項目分析

略号	項目	G - P 分析結果					通過率	? 反応率
		スコア			χ^2 値			
		0	1	2				
OCA01	将来の職業は、自分でよく考え自分で決める	上位群	4	18	207	72.256 ***	74.2	22.0
		下位群	17	82	116			
OCA02	つきたい職業の内容やどうしたらつけるかなどは親や先生に調べてもらう	上位群	26	88	113	32.720 ***	34.6	53.8
		下位群	24	139	52			
OCA03	将来の職業は、親や先生のすすめる職業に決める	上位群	1	37	189	74.165 ***	61.4	34.6
		下位群	15	104	96			
OCA04	つきたい職業の内容やどうしたらつけるかなどはできるだけ自分で調べる	上位群	7	48	172	168.181 ***	43.3	47.5
		下位群	35	149	31			
OCA05	将来の職業は、自分が持っているかどうか自分で考えて決める	上位群	3	22	202	106.949 ***	67.1	26.5
		下位群	31	92	92			
OCA06	将来の職業を決めてもその後のことは親や先生に責任をもってもらうつもりである	上位群	4	33	190	63.328 ***	63.6	33.8
		下位群	11	101	103			
OCA07	将来の職業は、親や先生があつているという職業に決める	上位群	13	48	166	59.174 ***	52.5	38.8
		下位群	30	106	79			
OCA08	将来の職業について決めたら、その後のことについては自分で責任をもつつもりである	上位群	1	27	199	105.283 ***	60.9	35.4
		下位群	16	110	89			
OCA09	将来の職業につくための準備は、いろいろな人のアドバイスを受けながらも自分でできる	上位群	9	106	112	86.222 ***	28.8	61.2
		下位群	40	152	23			
OCA10	職業についてからも親に助けてもらいたい	上位群	131	75	21	19.638 ***	11.5	42.9
		下位群	79	103	33			
OCA11	将来の職業につくための準備は、自分ではできない	上位群	11	102	114	70.578 ***	29.0	56.7
		下位群	51	129	35			
OCA12	職業につくことによって親から独立したい	上位群	35	108	84	13.883 ***	29.1	52.7
		下位群	44	126	45			

(注) *** $P < .001$

進路計画度尺度の検討

進路計画度尺度（Career Planning Scale, 以下 CPS と表記）についても教育的進路計画度尺度（Educational Career Planning Scale, 以下 ECPS と表記）と職業的進路計画度尺度（Occupational Career Planning Scale, 以下 OCPS と表記）の別に項目の妥当性の検証と項目の選定を行う。

1. ECPS 項目の妥当性検証と項目選定

〈表7〉は、ECPS 項目のG-P分析結果、通過率、?反応率をまとめたものである。

この表にもみられるようにG-P分析にもとづく12項目の弁別力の検証では、いずれの項目に関しても不都合な結果は認められず、この分析からの削除項目はなかった。

次に通過率が20%以下の項目、80%以上の項目をみると、80%以上の項目は1項目もないが、ECP 03「進学のための勉強は、いつも計画をたててしている」(3.5%) ECP 05「進学までの計画は、たてていない」(14.0%)、ECP 07「先ばいや先生の話の聞いたり、本を読んだりして進学までの計画をたてている」(8.7%)、ECP 09「進学した学校での過ごし方について計画をもっていない」(12.6%)、ECP 11「進学した学校での過ごし方について計画をもっている」(5.6%)の5項目については、通過率が20%以下であり除かれるべき項目としてあげられる。

また、?反応率についてみると、ECP 02「いま進学したいと思っている学校は、よく考えたうえで決めた学校であるので今後もかわらない」という項目で62.9%、ECP 04「いま進学したいと思っている学校は、思いつきであるのでしばらくするとかわる」という項目で58.8%と50%を上まわる反応率がみられ、この2項目については回答が難しい項目で適切さを欠くものと考えられる。

以上の考察を通してとり上げた項目を除くとECPの項目として次の項目が選定される。

ECP 01「進学の勉強は、試験のちかくなってやればよいことで今はあまりしていない」

ECP 06「進学したいと思っている学校は、将来つきたい仕事のことも考えあわせて決めている」

ECP 08「進学したいと思っている学校は、将来つきたい仕事のことは考えずに決めている」

ECP 10「自分にはどうしても進学したい学校がある」

ECP 12「進学する学校を決めるのは、進学の直前でよいのでまだ考えていない」

進路成熟態度尺度（CMAS－1）の作成と項目分析

<表7> ECPS の項目分析

略号	項目	G - P 分析結果					通過率	?反応率
		スコア			x ² 値			
		0	1	2				
ECP01	進学の勉強は、試験のちかくなってやればよいことで今はあまりしていない	上位群	34	90	106	82.984 ***	29.9	41.4
		下位群	112	83	31			
ECP02	いま進学したいと思っている学校は、よく考えたうえで決めた学校であるので今後もかわらない	上位群	17	114	99	66.683 ***	23.1	62.9
		下位群	44	156	23			
ECP03	進学のための勉強は、いつも計画をたてている	上位群	79	129	22	86.966 ***	3.5	38.4
		下位群	173	52	1			
ECP04	いま進学したいと思っている学校は、思いつきであるのでしばらくするとかわる	上位群	14	101	115	83.072 ***	26.3	58.8
		下位群	48	151	27			
ECP05	進学までの計画は、たてていない	上位群	77	95	58	125.354 ***	14.0	28.2
		下位群	192	24	10			
ECP06	進学したいと思っている学校は、将来つきたい仕事のことも考えあわせて決めている	上位群	27	54	149	95.993 ***	41.3	34.8
		下位群	86	94	46			
ECP07	先ばいや先生の話の聞いたり、本を読んだりして進学までの計画をたてている	上位群	69	120	41	115.514 ***	8.7	36.2
		下位群	180	40	6			
ECP08	進学したいと思っている学校は、将来つきたい仕事のことは考えずに決めている	上位群	19	51	160	114.984 ***	44.8	37.9
		下位群	65	116	45			
ECP09	進学した学校での過ごし方について計画をもっていない	上位群	77	97	56	81.968 ***	12.6	32.6
		下位群	171	37	18			
ECP10	自分にはどうしても進学したい学校がある	上位群	22	71	137	164.825 ***	31.8	36.2
		下位群	139	63	24			
ECP11	進学した学校での過ごし方について計画をもっている	上位群	86	115	29	102.805 ***	5.6	37.0
		下位群	188	36	2			
ECP12	進学する学校を決めるのは、進学の直前でよいのでまだ考えていない	上位群	4	28	198	162.658 ***	56.5	33.6
		下位群	52	112	62			

(注) ***..... P<.001

2. OCPS 項目の妥当性検証と項目選定

〈表8〉は、OCPS 項目の妥当性検証と項目選定のためにまとめたものである。

この表からも明らかなように12項目いずれに関しても χ^2 値は大きく、全ての項目に弁別力があることがわかる。

しかし、キースコア一致率、つまり通過率をみると OCP 03「職業につくための計画をもって準備している」(7.1%)、OCP 05「職業につくまでの計画はたてていない」(13.8%)、OCP 07「先ばいや先生の話の聞いたり、本を読んだりして職業につくまでの計画をたてている」(9.7%)、OCP 09「職業についてからの計画をたてていない」(13.5%)、OCP 11「職業についてからの計画をたてている」(8.2%)の5項目は通過率が20%を下まわっており、中学生の職業的発達段階から若干偏差のある項目としてあげられる。

さらに?反応率の側面より削除項目をみると OCP 02「今つきたいと思っている職業は、よく考えたうえで決めた職業であるので今後もかわらない」という項目で57.1% OCP 04「今つきたいと思っている職業は思いつきであるのでしばらくするとかわる」という項目で58.0%と、この2項目に50%以上の?反応率がみられる。

通過率、?反応率の許容範囲を逸脱するこれら7項目を除くと次の5項目がOCPSの項目として選定される。

- OCP 01「職業につくための準備は、就職の直前になってやればよいことで今はしていない」
- OCP 06「今つきたいと思っている職業は進学したい学校のことも考えあわせて決めている」
- OCP 08「今つきたいと思っている職業は、進学したい学校のことは別に決めている」
- OCP 10「自分にはどうしてもつきたい職業がある」
- OCP 12「つきたい職業を決めるのは、就職の直前でよいのでまだ考えていない」

進路成熟態度尺度（CMAS－1）の作成と項目分析

<表 8> OCPS の項目分析

略号	項目	G - P 分析結果					通過率	?反応率
		スコア			x ² 値			
		0	1	2				
OCP01	職業につくための準備は、就職の直前になってやればよいことで今はしていない	上位群	25	78	124	120.946 ***	29.2	45.9
		下位群	101	94	20			
OCP02	今つきたいと思っている職業は、よく考えたうえで決めた職業であるので今後かわらない	上位群	17	96	114	90.099 ***	26.4	57.1
		下位群	54	140	21			
OCP03	職業につくための計画をもって準備している	上位群	86	100	41	81.915 ***	7.1	31.7
		下位群	172	35	8			
OCP04	今つきたいと思っている職業は思いつきであるのでしばらくするとかわる	上位群	8	83	136	135.840 ***	28.2	58.0
		下位群	50	146	19			
OCP05	職業につくまでの計画はたてていない	上位群	51	94	82	194.246 ***	13.8	27.4
		下位群	190	17	8			
OCP06	今つきたいと思っている職業は進学したい学校のことも考えあわせて決めている	上位群	27	55	145	150.416 ***	33.0	41.8
		下位群	94	103	18			
OCP07	先ばいや先生の話を聞いたり、本を読んだりして職業につくまでの計画をたてている	上位群	63	114	50	128.213 ***	9.7	34.2
		下位群	174	35	6			
OCP08	今つきたいと思っている職業は、進学したい学校のこととは別に決めている	上位群	29	52	146	119.357 ***	33.6	43.0
		下位群	63	123	29			
OCP09	職業についてからの計画をたてていない	上位群	68	80	79	143.103 ***	13.5	27.8
		下位群	180	33	2			
OCP10	自分にはどうしてもつきたい職業がある	上位群	10	58	159	229.853 ***	33.3	37.8
		下位群	138	62	15			
OCP11	職業についてからの計画をたてている	上位群	85	91	51	133.913 ***	8.2	27.4
		下位群	194	18	3			
OCP12	つきたい職業を決めるのは、就職の直前でよいのでまだ考えていない	上位群	7	30	190	209.870 ***	47.2	39.4
		下位群	74	108	33			

(注) *** …… P < .001

進路関心度尺度の検討

進路成熟態度尺度の第3の構成尺度である進路関心度尺度（Career Concern Scale, 以下 CCS と表記）に関しても教育的進路関心度尺度（Educational Career Concern Scale, 以下 ECCS と表記）と職業的進路関心度尺度（Occupational Career Concern Scale, 以下 OCCS と表記）ごとに項目の妥当性の検証とそれにもとづく項目選定をすることにする。

1. ECCS 項目の妥当性検証と項目選定

〈表9〉にもとずき前項までと同様の手順で、まずG-P分析結果をみると、このECCSの12項目全てに高い弁別力がみられ、この観点から削除される項目はない。

また、通過率に関してもECC01からECC12にいたる全項目の通過率が20%~80%の範囲にあり、この点からも適切さを欠くと考えられる項目は抽出されないのである。

さらに?反応率についてみても、12項目中ECC12「進学のことについて強い興味をもっている」という項目が44.5%と最も高いが、このパーセンテージすら、?反応率の選定基準である50%を下まわっており、ことさら削除項目としてとりあげるべき項目はみあたらない。

以上のように、このECCSの12項目については、先にあげた3つの項目選定基準を全てみたしており、12項目全てをECCSの項目として選定することができる。なお、選定された12項目についての具体的列記は紙面の都合で省略するが、〈表9〉の項目を参照されたい。

2. OCCS 項目の妥当性検証と項目選定

OCCSの12項目についても、ECCS同様、〈表10〉に示すようにG-P分析の結果、通過率の結果、さらには?反応率の結果とも項目選定基準内にあり、全ての項目をOCCSの項目として選定することができる。

OCCSの項目として選定された12項目についても、あえて列記しないが、〈表10〉の項目を参照されたい。

進路成熟態度尺度（CMAS－1）の作成と項目分析

＜表 9＞ ECCS の項目分析

略号	項目	G - P 分析結果					通過率	?反応率
		スコア			χ^2 値			
		0	1	2				
ECC01	何のために進学するかしんげんに考えたことがある	上位群	23	63	144	215.094 ***	30.6	35.0
		下位群	158	57	11			
ECC02	世のなかにどんな学校や学科があるかもっと知りたい	上位群	14	43	173	70.397 ***	61.0	25.5
		下位群	64	76	86			
ECC03	進学のことについてはそれほど興味をもっていない	上位群	21	44	165	209.807 ***	36.7	36.0
		下位群	129	84	13			
ECC04	進学したいと思っている学校では、どのような構えや態度が必要なのかとても気になる	上位群	16	42	172	142.744 ***	47.4	30.6
		下位群	94	84	48			
ECC05	何のために進学するかしんげんに考えたことがない	上位群	16	48	166	217.234 ***	38.4	33.1
		下位群	144	60	22			
ECC06	世のなかに、どんな学校や学科があるかはそのうちにわかるので今はそれほど関心がない	上位群	19	60	151	210.097 ***	34.9	34.0
		下位群	144	68	14			
ECC07	進学したいと思っている学校では、どのような構えや態度が必要なのかそれほど気にならない	上位群	19	42	169	157.280 ***	43.4	29.7
		下位群	118	68	40			
ECC08	進学のこととは、つねに気になる	上位群	10	58	162	205.222 ***	41.4	32.1
		下位群	138	60	28			
ECC09	進学のこととは、あまり気にならない	上位群	8	15	207	248.889 ***	53.8	24.7
		下位群	124	64	38			
ECC10	進学したいと思っている学校について人にたずねたり、調べたりしたことがある	上位群	36	37	157	192.082 ***	34.3	19.0
		下位群	173	31	22			
ECC11	進学したいと思っている学校について人にたずねたり、調べたりしたことがない	上位群	29	31	170	200.751 ***	37.3	21.6
		下位群	164	36	26			
ECC12	進学のこと強い興味をもっている	上位群	9	77	144	250.865 ***	28.2	44.5
		下位群	151	68	7			

(注) *** …… P < .001

<表 10> OCCS の項目分析

略号	項目	G - P 分析結果				通過率	?反応率	
		スコア			x ² 値			
		0	1	2				
OCC01	何のために職につくのか, しんけんに考えたことがある	上位群	19	55	153	220.035 ***	30.6	33.6
		下位群	154	47	14			
OCC02	世のなかに, どんな職業や仕事があるかもっと知りたい	上位群	18	29	180	32.568 ***	69.5	20.3
		下位群	45	55	115			
OCC03	将来の職業のことについては, それほど興味をもっていない	上位群	24	26	177	210.239 ***	40.1	31.7
		下位群	135	58	22			
OCC04	つきたいと思っている職業にはどのような心構えや態度が必要とされるのかとても気になる	上位群	17	35	175	176.952 ***	44.6	33.4
		下位群	108	74	33			
OCC05	何のために職業につくのかしんけんに考えたことがない	上位群	14	45	168	214.180 ***	37.6	31.2
		下位群	138	55	22			
OCC06	世のなかにどのような職業や仕事があるかはそのうちにわかるのでそれほど関心がない	上位群	12	42	173	62.858 ***	46.2	35.1
		下位群	95	82	38			
OCC07	つきたいと思っている職業には, どのような心構えや態度が必要とされるのかそれほど気にならない	上位群	10	41	176	218.060 ***	43.1	32.0
		下位群	118	74	23			
OCC08	自分の将来の職業のことは気になる	上位群	2	12	213	204.203 ***	65.4	20.8
		下位群	93	61	61			
OCC09	自分の将来の職業のことは, あまり気にならない	上位群	3	12	212	254.535 ***	58.1	25.4
		下位群	104	71	40			
OCC10	つきたいと思っている職業について人にたずねたり, 調べたりしたことがある	上位群	32	34	161	228.792 ***	32.1	23.3
		下位群	174	30	11			
OCC11	つきたいと思っている職業について人にたずねたり, 調べたりしたことはない	上位群	34	26	167	219.303 ***	35.7	20.0
		下位群	172	28	15			
OCC12	将来の職業のことに強い興味をもっている	上位群	3	33	191	293.338 ***	41.9	37.8
		下位群	128	75	12			

(注) *** …… P < .001

結果の要約

以上の検討の結果を「削除項目数と選定項目数」ということでまとめてみると〈表 11〉の通りである。

〈表 11〉 CMAS－1 項目分析結果の要約

削除・選定の別 尺度	削除項目数			選定項目数
	G－P分析	通過率	?反応率	
ECAS	0	2	5	6
OCAS	0	1	4	7
ECPS	0	5	2	5
OCPS	0	5	2	5
ECCS	0	0	0	12
OCCS	0	0	0	12

〔註〕 ECA09は通過率，?反応率ともに削除項目であるため重複があり，ECAS欄の合計は13になっている

この表をもとに結果の要約を箇条書にあげてみることにする。

- ① 今回 CMAS－1 の下位尺度として設定した 6 尺度 72 項目のうち，G－P 分析，通過率，?反応率の 3 選定基準をみたした項目，つまり一応妥当性のあると認められた項目は 47 項目であった。
- ② 特に ECCS，OCCS の各 12 項目については，全て妥当性ある項目として選定できた。
- ③ しかし，CAS に関しては ECAS が 6 項目，OCAS が 7 項目と約半数，CPS に関しては ECPS，OCPS とともに 5 項目と半数を下回る項目しか選定できなかった。
- ④ G－P 分析にもとづく弁別力の検証からは削除された項目は皆無であったが，通過率が 20%～80% の範囲外の項目が 13 項目，?反応率が 50% を越える項目が 13 項目あった。
- ⑤ そのうち通過率が 20% 以下であったため削除された項目が ECPS，OCPS それぞれ 5 項目，計 10 項目あったが，これは，中学生の進路計画度の発達を過大に評価した項目をセットしたことによるものと考えられる。中学生段階の進路に対する時間展望などの実態にあわせた項目を用意すべきであった。
- ⑥ また，?反応率が 50% を越える項目が ECPS で 5 項目，OCAS で 4 項目あったが，これも，両者の項目設定にあたって発達段階にそぐわない項目があったことによるものと考えられる。特に，この進路自律度を測定するための項目としては，中学生の進路発達課題をふまえた項目設定をすべきであった。

おわりに

今回は進路成熟態度尺度の作成にむけて、その第一歩として CMAS-1 を作成し、用意した 72 項目について項目分析をするなかで項目の妥当性検証と、選定を行ったのである。しかし、今後に残された課題は非常に多く、①進路成熟態度尺度の下位尺度ごとの設定項目数の決定、②各項目のワーディングをはじめとする項目整備、③下位尺度検討のための項目間構造の検証、④信頼性の検証など尺度確立のために作業を進めねばならない。

なお、この CMAS-1 の項目分析により削除された項目は、新しく項目を設定し、再度検討したい。

(昭和 56 年 8 月 31 日受理)

〔引用・参考文献〕

- (1) Super, D.E. 1957 *Psychology of Careers: An Introduction to Vocational Development* New York: Harper & Brothers.
- (2) 中西信男 1976 進路発達検査 (CDT-2) の研究 大阪大学人間科学部紀要第 2 巻 113-160.
- (3) 広井甫 1978 労働に対する無関心派ふえる キャリアガイダンス, 10 (4), 15-17.
- (4) 広井甫・中西信男 1978 学校進路指導 誠信書房
- (5) 竹内登規夫・坂柳恒夫 1977 児童のキャリア成熟に関する要因分析 日本教育社会学会 第 29 回大会発表要旨集録
- (6) 竹内登規夫・坂柳恒夫 1977 児童の進路成熟に関する多次元分析 進路指導, 50 (12), 14-20.
- (7) 竹内登規夫 1979 進路成熟に関する多次元分析 立教大学社会学部紀要応用社会学研究 第 20 集 93-116.
- (8) 坂柳恒夫 1980 進路成熟に関する一考察 進路指導, 53 (3), 35-39.